

# 1月 給食だより

令和6年12月24日  
No.7  
川崎市立浅田小学校

## 1月の献立について

- 行事食について (1月24日 (金) 実施)  
ごはん、焼きのり、牛乳、さけの塩焼き、煮びたし、みそ汁  
「学校給食週間」に伴い、給食開始当時の献立にちなんだ内容です。
- 1月に給食で使用する季節の食品  
大根、キャベツ、ごぼう、小松菜、セロリ、  
ほうれん草、長ねぎ、白菜、のり
- 新献立「さばのねぎみそかけ」  
油で炒めた長ねぎ、水、赤みそ、砂糖、みりん、酒、水溶き片栗粉  
でねぎみそだれを作り、焼いたさばにかけました。



## ご存じですか? 年末年始の行事食

日本には四季折々の行事があり、それにまつわる行事食があります。特に、新しい1年の始まりである正月は、その年の豊作や幸福をもたらす「歳神様」を各家庭に迎える行事として、昔からとても大切にされてきました。行事食は地域や家庭によってもさまざまですが、代表的なものをご紹介します。

大晦日 (12/31).....

**年越しそば**  
そばのように細く長く生きられるようにと、長寿を願って食べられる (諸説あり)。

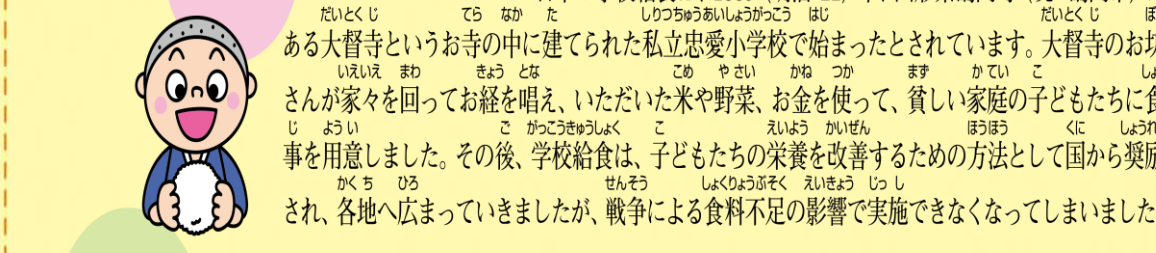
人日の節句 (1/7).....

**七草がゆ**  
7種類の若菜を入れたおかゆを食べ、1年の無病息災を願う。

## 1/24~1/30 全国学校給食週間 給食の歴史&献立の変遷

### 学校給食の始まり

日本の学校給食は、1889 (明治22)年、山形県鶴岡町 (現・鶴岡市) にある大督寺というお寺の中に建てられた私立忠愛小学校で始まったとされています。大督寺のお坊さんが家々を回ってお経を唱え、いただいた米や野菜、お金を使って、貧しい家庭の子どもたちに食事を用意しました。その後、学校給食は、子どもたちの栄養を改善するための方法として国から奨励され、各地へ広まってきましたが、戦争による食料不足の影響で実施できなくなってしまいました。



### 支援物資による学校給食の再開

戦争が終わり、子どもたちの栄養状態の悪化が心配されたことから、1946 (昭和21)年に、アメリカのLARA (アジア救援公認団体) から給食用物資の寄贈を受け、翌年1月から学校給食が再開されました。当初は給食用物資の贈呈式が行われた12月24日を「学校給食感謝の日」としましたが、1950 (昭和25)年度からは冬季休業と重ならない1月24日~30日を「全国学校給食週間」とすることが定められました。



### 昭和22年ごろの給食

脱脂粉乳や缶詰などの物資を使って給食が作られました。

トマトシチュー・ミルク

### 昭和25年ごろの給食

アメリカから寄贈された小麦粉を使って、パン・ミルク・おかずの完全給食が始まりました。

コッペパン・ミルク・カレーシチュー

### 昭和40年代ごろの給食

パンの種類が増え、めん類も提供されるようになりました。脱脂粉乳のミルクは牛乳へと切り替わりました。

ミートスパゲッティ・牛乳・フレンチサラダ・プリン

### 昭和50年代ごろの給食

給食の主食はパンが中心でしたが、昭和51年に米飯が正式に導入され、献立の内容も豊かになっていきました。

カレーライス・牛乳・塩もみ・バナナ